



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院 文学研究科

大学院案内
2013年度入学者用



文化科学
Humane Studies

言語科学
Linguistic Studies

歴史科学
Historical Studies

人間科学
Human Sciences

TOHOKU UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
ARTS AND LETTERS

はじめに

文学研究科は創立以来90年の歴史を持ち、この間一貫して我が国における人文社会分野の学問研究をリードしてきました。このたび文科省が行った大学評価においても、文学研究科はこの分野において最高水準の評価を得ました。大学院は前期課程と後期課程に分かれますが、その趣旨は異なります。

前期課程では、特定分野に関してより深く専門的な知識を身につけることが目的です。社会の高度産業化が進み、高い専門的知識・技能を学んだ専門家が求められるようになってきました。大学院前期課程はそうした社会的ニーズに応えようとするものです。

一方、後期課程は研究者を目指すコースです。その意味で、後期課程進学は職業選択にあたり、研究者の必須条件である学位取得が目標です。これを目指す中で行われる研究は、大学院生とはいえ、世界に通用する第一線の研究が求められます。大学院では、教員と学生の間でマンツーマンの指導が行われます。進学者は、分野だけでなく教員の研究テーマと研究方法をよく知る必要があります。両者の組み合わせが適合した時、有意な研究指導が実現し、学生の潜在能力が引き出され、創造的成果が生まれます。

指導者を選ぶ際には「是非、この先生に学びたい」という熱意も大切です。文系では特に、尊敬できる指導者に会えることは学問の道を進む上で重要な経験です。

大学院文学研究科長

大淵 憲一



大淵 憲一 おおぶち けんいち

1950年生まれ
東北大学大学院文学研究科心理学講座教授・博士(文学)。
専門は社会心理学、特に紛争解決と攻撃性の研究。
著書に「謝罪の研究」(2010)など。
2011年4月から東北大学文学部長、大学院文学研究科長。



東北大学大学院 文学研究科

TOHOKU UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF ARTS AND LETTERS

Contents

- 04 本研究科の特色
- 05 教育研究組織
- 06 入学について
- 07 学生生活について
- 08 履修方法等
- 09 学術交流協定締結等
- 11 博士号取得者の一覧
- 12 文学研究科在学生・修了生からのメッセージ
- 14 専攻分野研究室・教員紹介
 - 文化科学専攻
 - 言語科学専攻
 - 歴史科学専攻
 - 人間科学専攻

文学研究科の教育理念

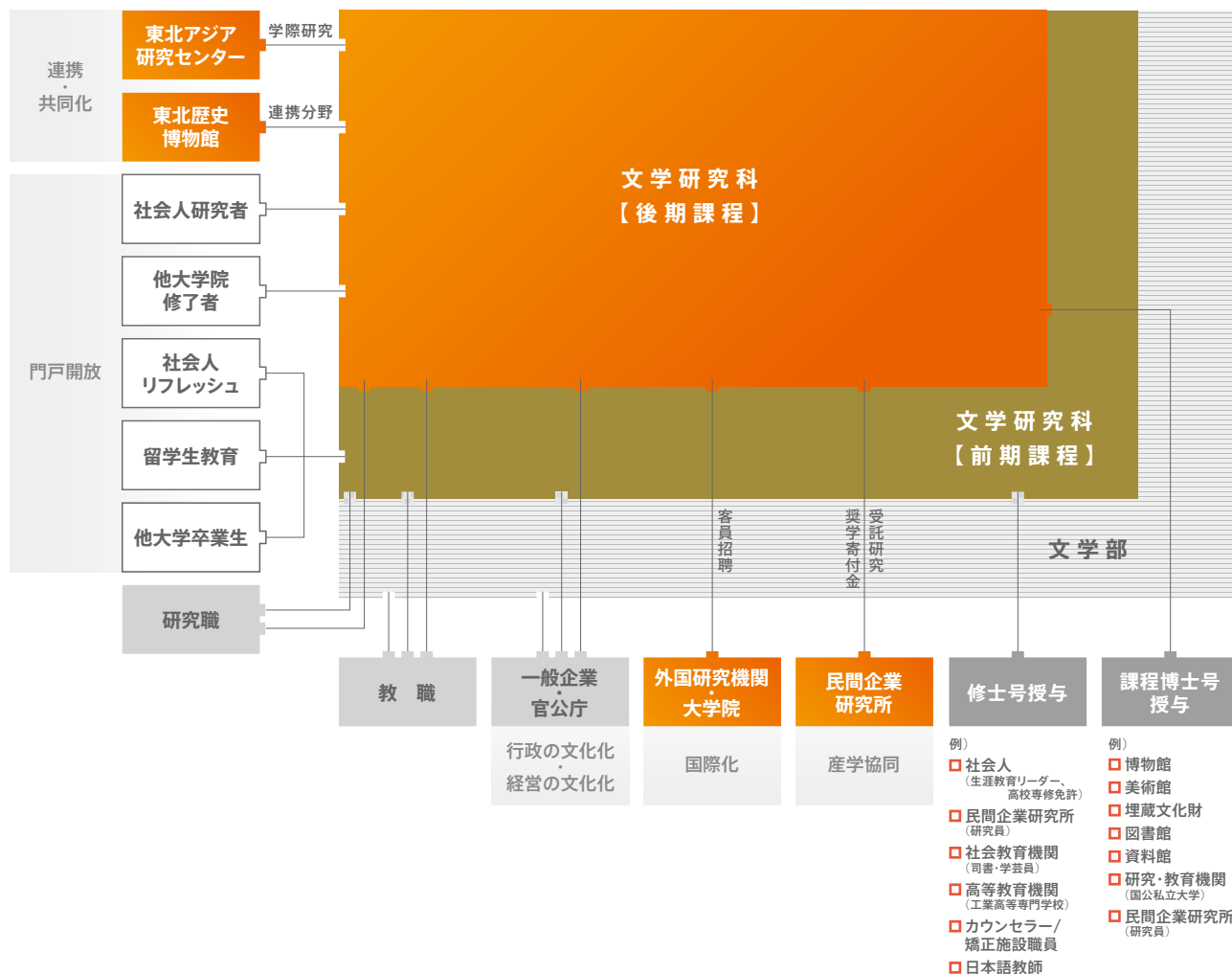
文学研究科の教育理念は、人文社会科学を構成する各専門分野の研究を通じて、人類文化の知的遺産を確実に継承するとともに、その創造的発展に積極的に寄与しうる研究者および高度な専門的職業人を育成し、かつ、幅広い教養と専門知識を柔軟に活用できる人材を広く社会に送り出すことです。そのような人材は、各専門分野における先端的な研究能力を修得するのみならず、幅広い学際的視野と卓越した国際的発信能力を備えていなければなりません。現代社会が抱える諸問題の解決には、何よりも分野を横断した学際的協働と国境を超えた国際的協力が要求されているからです。そのためには、海外からの留学生を積極的に受け入れ、日本文化の理解を通じて国際理解を深めると同時に、現場の課題に取り組む社会人の再教育に力を注ぐことによって最新の研究成果の社会への還元をはかることが必要となります。文学研究科が目指すのは、人間の精神活動や社会活動への深い洞察力に基づいて異質の文化を理解し、高度で幅広い知識を生かすことによって人類社会への貢献をなす人材の養成です。

文学研究科の研究理念

文化科学、言語科学、歴史科学、人間科学の4専攻からなる文学研究科は、個人から社会までを貫く「人間性」の探究を研究目的とします。そしてこの研究目的は次の4つの柱からなります。

- 1 人間性の結晶である人類の精神文化および社会組織を研究対象とし、世界的水準の研究を行い、その成果を世界へ向けて発信します。
- 2 国際的な研究拠点としての体制を整備し、学際的・先端的共同研究を推進するとともに、現代的要請に応えて新たな学問分野の開拓に力を注ぎます。
- 3 広く学問の基盤となる基礎研究を重視し、長期的視野に立って、基礎的な研究資料を整備します。
- 4 学問的成果を広く社会に還元し、人類文化の持続的発展に寄与します。

大学院文学研究科・教育機能図



教育研究組織

(平成24年4月1日現在)

専攻名	講座名	専攻分野名	担当教員名
文化科学	日本文学	国文学	教授 / 佐藤 伸宏 准教授 / 横溝 博 助教 / 高橋 早苗 教授 / 佐倉 由泰
		日本思想史	教授 / 佐藤 弘夫 准教授 / 片岡 龍 助教 / 富樫 進
	中国文学	中国語学中国文学	教授 / 佐竹 保子 准教授 / 馬 暁地
		中国思想中国哲学	教授 / 三浦 秀一 准教授 / 齋藤 智寛 助教 / 高橋 陸美
	インド文学	インド学仏教史	教授 / 桜井 宗信 助教 / 吉水 清孝 助教 / 尾園 絢一
	西洋文学	英文学	教授 / 大河内 昌 准教授 / 岩田 美喜 准教授 / ジェイムズ・ティンク
		英語学	教授 / 金子 義明 准教授 / 島 越郎 助教 / 中村 太一
		ドイツ文学	教授 / 森本 浩一 准教授 / 嶋崎 啓 教授 / プリギッテ・アンネマリ・シュミツ
		フランス語学フランス文学	教授 / 阿部 宏 准教授 / ヤン・エリック・メヴェル 助教 / 島貫 葉子 教授 / 今井 勉 准教授 / 黒岩 卓
	哲学	哲学	(併)教授(本学理事) / 野家 啓一 准教授 / 直江 清隆 助教 / 伊藤 周史 教授 / 座小田 豊一 准教授 / 荻原 理 准教授 / 原 壱
倫理学		教授 / 戸島 貴代志 准教授 / 村山 達也 助教 / 大森 史博	
言語科学	言語学	言語学	教授 / 千種 眞一 准教授 / 小泉 政利 助教 / 金 情浩 教授 / 後藤 斉
	日本語学	国語学	教授 / 齋藤 倫明 准教授 / 大木 一夫 教授 / 小林 隆 准教授 / 甲田 直美
	日本語教育学	日本語教育学	教授 / 才田 いずみ [協力教員] 教授(国際交流センター) / 助川 泰彦 准教授 / 名嶋 義直 准教授 / 田中 重人
歴史科学	日本史学	日本史	教授 / 大藤 修 准教授 / 安達 宏昭 教授 / 柳原 敏昭 准教授 / 堀 裕
		考古学	教授 / 阿子島 香 准教授 / 鹿又 喜隆 助教 / 佐野 勝宏
	東洋史学	東洋史	教授 / 熊本 崇 准教授 / 大野 晃嗣 教授 / 川合 安
	ヨーロッパ史学	ヨーロッパ史	教授 / 小野 善彦 准教授 / 有光 秀行 助教 / 大谷 啓
	美術史学	東洋・日本美術史	教授 / 長岡 龍作 助教 / 海野 啓之 教授 / 泉 武夫
		美学・西洋美術史	教授 / 尾崎 彰宏 准教授 / 芳賀 京子 准教授 / エンリコ・フォンガロ
	[協力講座] 比較文化史学		教授(東北アジア研究センター) / 磯部 彰 准教授(東北アジア研究センター) / 寺山 恭輔
	[協力教員] 保存修復		教授(総合学術博物館) / 柳田 俊雄
[連携・併任分野] 文化財科学		客員教授(東北歴史博物館) / 笠原 信男 客員准教授(多賀城跡調査研究所) / 吉野 武 客員教授(多賀城跡調査研究所) / 佐藤 則之	
人間科学	社会学	社会学	教授 / 長谷川 公一 准教授 / 下夷 美幸 助教 / 木村 雅史 教授 / 正村 俊之 教授 / 永井 彰
	行動科学	行動科学	教授 / 佐藤 嘉倫 准教授 / 浜田 宏 助教 / 川嶋 伸佳 教授 / 木村 邦博 准教授 / 永吉 希久子
	心理学	心理学	教授 / 大淵 憲一 准教授 / 辻本 昌弘 教授 / 行場 次朗 准教授 / 坂井 信之 教授 / 阿部 恒之
	人間文化科学	文化人類学	教授 / 沼崎 一郎 准教授 / 川口 幸大
		宗教学	教授 / 鈴木 岩弓 准教授 / 木村 敏明 助教 / 庄司 一平 准教授 / 山田 仁史
[協力講座] 科学技術論		教授(東北アジア研究センター) / 明日香 壽川 准教授(東北アジア研究センター) / 石井 敦	
留学生担当			准教授 / 高橋 章則
コンピュータ室			准教授 / 桐原 健真
グローバルCOE			准教授 / 竹中 歩 助教 / 中室 牧子 助教 / 瀧川 裕貴 助教 / 松崎 瑠美
実践宗教学寄附講座			教授 / 鈴木 岩弓 准教授 / 谷山 洋三 准教授 / 高橋 原

教員の研究活動の詳細については「東北大学研究者紹介」(<http://db.tohoku.ac.jp/whois/>)をご覧ください。

入学について

多様な選抜方法

本研究科では、28の専攻分野(博士課程前期・博士課程後期)について、「一般選抜」及び「社会人特別選抜」の学生募集を秋期と春期の2回行っています(博士課程後期の一般選抜募集は春期のみ)。「社会人特別選抜」には、「社会人リフレッシュ・コース」(博士課程前期)と「社会人研究者コース」(博士課程後期)があります。前期課程については、平成24年度秋期入学試験から試験方法の大幅な変更を実施しました。一部の専攻分野では試験科目の削減も行われたので、ホームページ等で詳細をご確認ください。

他大学院 修士生の受け入れ

本研究科以外の大学院で修士課程や博士課程前期を修了し、修士の学位を授与された学生を博士課程後期に受け入れ、博士(文学)の学位取得のため適切な教育・指導を行っています。



社会人、外国人留学生の 受け入れ

社会人が、高度の専門性・専門知識を取得することを支援するために、社会人を積極的に受け入れています。

博士課程後期「社会人研究者コース」は、すでに研究歴を有する社会人を対象にその研究活動を支援するため在職のまま博士(文学)の学位を取得できるように設けたコースです。

また、外国人留学生も積極的に受け入れられており、様々な国・地域出身の多くの留学生が学位取得を目指して学んでいます。

前期課程は平成23年度から より学びやすくなりました

大学院前期課程では大幅なカリキュラム改訂を実施し、基礎から高度な専門にいたる様々な内容の授業を広く受講できるようになりました。また、従来の修士論文に加え、修士研究による修了が可能となりました。修士研究とは、教員の指導の下に一定の学問的課題を設定し、その研究成果を有形化するもので、翻訳やデータベース構築、映像記録作成など様々な形式が考えられます。文学研究科では、教員による懇切な個別面談を通じて、修了に至るまで適切な研究指導を行っています。



修学・研究を支援する様々な制度

後期課程における 早期修了

既に一定の研究歴を持つ社会人研究者コース学生などが、大学院後期課程入学後に優れた研究業績をあげたと認められる場合、最短1年で課程修了することができます。

国際高等研究教育院の 「研究教育院生」

東北大学には、新しいタイプの分野融合と学際的研究を目指す若手研究者を支援する研究科横断的な組織「国際高等研究教育院」があります。文学研究科の大学院生も、所定の条件を満たし審査に合格すれば、文学研究科に在籍したまま、「修士・博士研究教育院生」として奨学金を受給し各種の支援を受けることができます。

長期履修制度

職業を有している、あるいは出産・育児・介護で時間を必要とする等の事由のある学生は、入学時の申請によって、標準年限を超える期間を修学期間として設定することができます。これを許可された「長期履修学生」は、授業料の加増なしに、前期課程は4年、後期課程は6年を上限とする期間において、計画的な履修ができます。



CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

学生生活をさまざまな面から支援する施設が整っています。



文学部・文学研究科



1 学生相談所、2 保健管理センター、3 国際交流センター、4 キャリア支援センター

川内キャンパス内には、学生相談所、保健管理センター、国際交流センター、キャリア支援センターなど、学生生活を支援するための多くの施設が設置されており、学生が気軽に利用できるようになっています。植物園も研究の合間に気分転換をはかるための絶好の散策場所です。



附属図書館本館

さらに、附属図書館本館は文学研究科に隣接して立地しており、学習研究に不可欠な知の快適空間になっています。本館のみで和漢書1,428,751冊、洋書1,124,718冊、計2,553,469冊、和雑誌24,123種、洋雑誌16,581種、計40,704種、附属図書館全体で図書3,815,636冊、雑誌76,136種を数える蔵書は、国内有数の量です。質的にも、狩野文庫(国宝2点を含む)、漱石文庫ほか多くの特筆すべき特殊文庫、貴重書が収められています。

主な関連特殊文庫

文庫名等	旧蔵者	冊数	分野
阿部文庫	阿部次郎	5,190冊	日本文化全般
石津文庫	石津照璽	4,773冊	宗教哲学
伊東文庫	伊東信雄	4,526冊	考古学・歴史学
大類文庫	大類伸	946冊	西洋史
狩野文庫	狩野亨吉	108,000冊	和漢古典中心全分野
河野文庫	河野与一	1,108冊	古典学
児島文庫	児島喜久雄	1,494冊	西洋美術史
漱石文庫	夏目漱石	3,068冊	英文学。書入
晩翠文庫	土井晩翠	2,624冊	西洋詩関係。書入
ケーベル文庫	Raphael von Koeber	1,999冊	西洋哲学
ヴント文庫	Wilhelm Wundt	15,840冊	心理学中心
西藏大蔵経	多田等観	6,652部	チベット学
金谷文庫	金谷治	5,252冊	中国思想・哲学

現在では研究に欠かせなくなった電子ジャーナルやデータベースなども充実してきており、学内からアクセスできるようになっています。それを使いこなすための講習会も随時開かれています。

本館の開館時間は、平日は8時～22時、土・日・祝日も10時～22時と十分に長く、豊富な文献の蓄積に日常的に接することが可能です。

履修方法等

博士課程 前期

1年次

1年次は
主として
授業に専念

課題や演習を
通して研究テーマ
を絞り込む。

4月中旬 研究題目届
提出

2年次

2年次は
修士論文・修士研究の
完成に力点をおく

各専攻分野での構想発表会、
中間報告会などで、修士論文・
修士研究の進捗状況を報告する。

10月 修士論文・修士研究題目提出

12月中旬 修士論文・修士研究提出期限

1月上旬 論文審査教員の決定

2月 修士論文口頭試問

3月上旬 修了判定

3月下旬 学位授与

博士課程 後期

(博士論文執筆の要件) 最低2篇以上の論文を学術雑誌に公表する

1年次

博士論文特別研修にて
研究指導を受け、
修士論文などをもとに、
学術雑誌に論文を発表する。

4月中旬 研究題目届提出

5月 主たる指導教員の
決定

7月下旬 博士論文
作成計画書提出

学年末 中間報告の提出

2年次

修士論文によるもの
以外の、一篇以上の論文を
学術雑誌に発表する。

11月末 中間論文の提出

3年次

構想発表会等を経て、
博士論文を執筆する。

1月上旬 博士論文提出

1月中旬 博士論文審査
委員会の設置

2月ごろ 博士論文審査

3月下旬 学位授与

免許

一定の条件を満たしている場合、所定の科目を履修することにより、中学校教諭専修免許(国語、社会、英語、ドイツ語、フランス語、宗教)および高等学校教諭専修免許(国語、地理歴史、公民、英語、ドイツ語、フランス語、宗教)を取得することができます。

奨学制度

日本学生支援機構の奨学金貸与、日本学術振興会のPD及びDC特別研究員などの制度を利用することができます。また、学内の措置として、教育補助業務等により、学部教育の充実を図るとともに、大学院学生に対して指導者としての機会を提供しようとするティーチング・アシスタント(TA)や博士後期課程の学生を対象に研究科内のプロジェクト等に参加させることにより研究体制を強化すると同時に若手研究者の育成等を図るためのリサーチ・アシスタント(RA)制度があります。

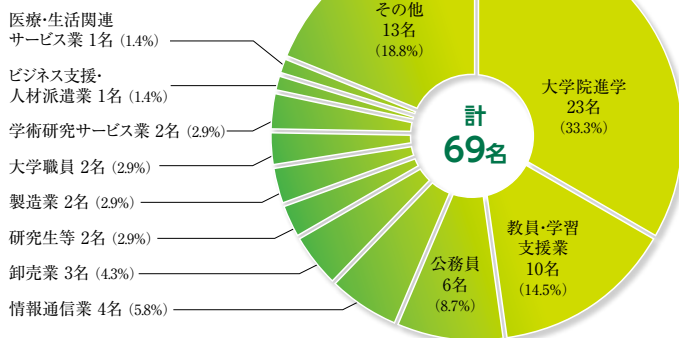


進路

平成23年度博士前期課程修了者の進路状況

主な就職先

群馬県公立高等学校教員	国立大学法人岩手大学
埼玉県公立高等学校教員	国立大学法人東北大学付属図書館
静岡県公立高等学校教員	公益財団法人上原近代美術館
日立市養護学校	NEC情報システムズ
仙台市役所	ソフトバンクモバイル
仙台法務局	東日本放送
福島県庁	東京サービスリサーチ
	河合塾



学術交流協定締結等

大学間協定

国・地域名	学術交流協定締結校名	締結年月日	
アジア地域	インド	インド工科大学ボンベイ校	2000.8.21
		インド科学大学	2008.12.18
	タイ	アジア工科大学院	1998.11.9
		スラナリー工科大学	2001.3.1
		キングモンクット工科大学ラカパン校	2004.4.15
	シンガポール	チュラロンコーン大学	2010.2.3
		シンガポール国立大学	2000.9.16
	インドネシア	インドネシア大学	2004.3.19
		ガジャマダ大学	2006.12.16
		バンドン工科大学	2008.6.4
	韓国	ポゴール農科大学	2010.3.23
		全北大学校	1991.11.12
		ソウル大学校	1998.7.8
		光州科学技術院	2000.8.21
		釜慶大学校	2000.8.21
		浦項工科大学校	2000.9.22
		韓国科学技術院	2001.4.24
		忠南大学校	2001.7.9
		慶北大学校	2002.9.2
		嶺南大学校	2003.12.3
		東義大学校	2003.12.19
		朝鮮大学校	2004.3.18
		高麗大学校	2004.3.31
		国立昌原大学校	2005.10.2
		西江大学校	2007.2.2
		延世大学校	2007.5.29
		釜山大学校	2007.7.26
	国立公州大学校	2007.7.29	
	中央大学校	2008.3.27	
	慶熙大学校	2010.3.5	
成均館大学校	2012.3.15		
モンゴル	モンゴル科学アカデミー	2000.8.21	
	モンゴル科学技術大学	2001.11.16	
ベトナム	ベトナム国立大学ハノイ校	2009.7.6	
中国	東北大学	1983.8.5	
	中国科学技術大学	1998.6.15	
	清華大学	1998.8.31	
	南京大学	1999.9.1	
	北京大学	1999.11.10	
	吉林大学	2001.3.1	
	浙江大学	2001.4.9	
	復旦大学	2001.4.19	
	武漢理工大学	2001.4.30	
	重慶大学	2001.7.4	
	同濟大学	2002.8.13	
	中国海洋大学(旧:青島海洋大学)	2002.10.21	
	北京科学技術大学	2002.10.25	
	南京航空航天大学	2003.3.10	
	廈門大学	2005.6.29	
	華中科技大学	2005.10.12	
	西安交通大学	2006.8.31	
	華東師範大学	2006.9.20	
	北京航空航天大学	2006.12.16	
	蘭州大学	2007.4.17	
	天津大学	2007.6.8	
	大連理工大学	2007.6.16	

国・地域名	学術交流協定締結校名	締結年月日	
アジア地域	中国	揚州大学	2008.6.20
		中国社会科学院	2008.10.15
		東南大学	2009.6.29
		上海交通大学	2009.10.15
		北京工業大学	2010.10.16
		北京郵電大学	2010.10.17
		香港科技大学	2011.2.1
	台湾	中国地質大学(武漢)	2012.2.6
		香港城市大学	2012.3.17
		国立台湾大学	2000.11.18
		国立台湾海洋大学	2002.3.8
		国立中正大学	2003.11.14
		国立成功大学	2005.8.9
中近東地域	イラン	テヘラン大学	1999.8.25
	トルコ	イスタンブール工科大学	2011.10.3
アフリカ地域	モロッコ	ムハンマド5世大学-アグダル	2001.4.30
	南アフリカ	クワズールー・ナタール大学	2010.12.20
太平洋地域	オーストラリア	シドニー大学	1993.1.8
		ニューサウスウェールズ大学	2001.4.7
	ニュージーランド	オークランド大学	2002.7.16
北米地域	カナダ	ウォータールー大学	2006.10.30
		オタワ大学	2009.6.26
	アメリカ	ペンシルバニア州立大学	1988.11.29
		カリフォルニア大学(10校)	1990.3.15
		パークレー校	1990.3.15
		デービス校	1990.3.15
		アーヴィン校	1990.3.15
		ロスアンゼルス校	1990.3.15
		リバーサイド校	1990.3.15
		サンディエゴ校	1990.3.15
		サンフランシスコ校	1990.3.15
		サンタバーバラ校	1990.3.15
		サンタクルス校	1990.3.15
		マーセド校	1990.3.15
		ワシントン大学(シアトル)	1996.7.3
		パーデュー大学	1997.9.23
		アラスカ大学	1999.1.12
		コロラド鉱山大学	2004.1.7
		シラキュース大学	2008.11.19
		国際教育協会	2009.1.27
テンプル大学	2010.6.7		
ハーバード大学	2010.7.22		
テキサスA&M大学	2011.9.13		
ハワイ大学マノア校	2012.3.11		
中南米地域	ベネズエラ	シモン・ボリバル大学	2008.1.8
欧州地域	フィンランド	アアルト大学(旧:ヘルシンキ工科大学)	2001.11.5
		オウル大学	2004.8.9
	タンペレ工科大学	2006.1.31	
	スウェーデン	ウーメオ大学	1997.8.18
		王立工科大学	2000.9.20
ウプサラ大学		2002.3.20	

国・地域名	学術交流協定締結校名	締結年月日
スウェーデン	ストックホルム大学	2003.1.14
	チャルマース工科大学	2006.4.19
イギリス	インペリアル・カレッジ・ロンドン	1988.5.4
	ロンドン大学 (The London School of Economics and Political Science)	1989.1.3
	ロンドン大学 (The School of Oriental and African Studies)	1989.4.10
	ノッティンガム大学	2001.5.15
	ヨーク大学	2004.6.7
	シェフィールド大学	2009.8.21
ベルギー	ベルギー原子力研究センター	2005.6.16
オランダ	グローニンゲン大学	2011.11.17
ドイツ	アーヘン工科大学	1998.5.19
	ドルトムント大学	1999.3.2
	ザールラント大学	1999.10.5
	ダルムシュタット工科大学	2003.4.30
	ゲッティンゲン大学	2003.10.23
	ドレスデン工科大学	2006.6.26
	ベルリン工科大学	2009.8.26
	ミュンヘン工科大学	2010.8.3
	カールスルーエ工科大学	2011.1.7
	カイザースラウテルン工科大学	2012.2.1
	ハイデルベルク大学	2012.2.2
	ヨハネスグーテンベルク大学	2012.2.6
フランス	ピエール・マリイ・キュリー大学	1999.8.19
	レンヌ第2大学	1999.12.3
	グルノーブルコンソーシアム	2000.3.31
	グルノーブル第1大学ジョセフ・フーリエ	2000.3.31
	グルノーブル第2大学ピエール・マンデス・フランス	2000.3.31
	グルノーブル第3大学スタンダール	2000.3.31
	グルノーブル理工科大学 (INPG)	2000.3.31
	ストラスブール大学	2000.3.31
	レンヌ第1大学	2000.12.20

国・地域名	学術交流協定締結校名	締結年月日
欧州地域	The Global Education for European Engineers and Entrepreneurs	2002.11.14
	国立応用科学院リヨン校	2004.7.13
	ポルドー第1大学	2005.7.28
	国立中央理工科学校 (Ecole Centrale) 5校	2006.2.13
	リール校	2006.2.13
	リヨン校	2006.2.13
	マルセイユ校	2006.2.13
	ナント校	2006.2.13
	パリ校	2006.2.13
	アルビ鉱山大学	2006.9.12
	リヨン政治学院	2008.6.6
	リヨン高等師範学校	2008.8.11
	エコール・ポリテクニーク	2009.9.9
	リヨン第2大学	2009.10.20
	コンピエヌ工科大学	2010.3.15
イタリア	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	1990.9.27
	フィレンツェ大学	2009.8.21
	トリノ工科大学	2010.11.24
	ナポリ大学	2012.3.28
	オーストリア	ウィーン大学
スイス	スイス連邦工科大学ローザンヌ校	2000.11.20
	スイス連邦工科大学チューリッヒ校	2010.7.21
ポーランド	ポーランド科学アカデミー・触媒表面化学研究所	1999.8.4
NIS地域	ロシア科学アカデミー・シベリア支部	1992.8.10
	モスクワ国立大学	1998.2.19
	ノボシビルスク国立大学	2003.7.4
	ロシア科学アカデミー・極東支部	2012.1.23
	ニジエゴロド国立大学	2012.3.19
極東連邦大学	2012.3.19	
ウクライナ	ウクライナ国立工業大学 (キエフ工科大学)	2004.6.2

部局間協定(文学研究科)

学術交流協定締結校名	国(地域)	締結年月日
国立中山大学文学院中国文学系	台湾	1999.4.3
中央研究院歴史語言研究所	台湾	2003.8.5
中央研究院中国文哲研究所	台湾	2004.9.24
ローマ大学「ラ・サピエンツァ」東洋学部	イタリア	2008.2.28
天主教輔仁大学外語学院	台湾	2008.12.24
ローマ大学「ラ・サピエンツァ」文学・哲学学部	イタリア	2010.3.15
ライデン大学人文学部	オランダ	2011.2.15
トゥルク大学社会科学部	フィンランド	2011.11.1
国立高雄大学人文社会科学学院	台湾	2012.4.1

専攻分野間(研究室・COE)協定

協定校名	国(地域)	締結年月日	締結専攻分野等
サハリン国立大学人類科学研究所考古学研究室	ロシア	2001.8.21	考古学専攻分野
中央研究院社会学研究所	中国(台湾)	2003.10.21	COE
成均館大学校東アジア学術院サーベイリサーチセンター	韓国	2004.10.5	COE
プリンストン大学社会学部	アメリカ	2005.7.20	COE
モンゴル国立大学社会科学部宗教学研究科宗教学研究室	モンゴル	2006.2.21	宗教学専攻分野



平成23年度 課程博士学位授与者名簿

番号	氏名	専攻	論文題目	審査委員
文博第379号	天野 真志	歴史科学	幕末維新期における国事周旋活動の研究	(主査) 大藤 修 柳原 敏昭/安達 宏昭/堀 裕/片岡 龍
文博第380号	塩谷 芳也	人間科学	職業威信尺度と階層的的地位志向—ミクロな個人が持つ職業的地位認知に着目して—	(主査) 佐藤 嘉倫 木村 邦博/正村 俊之/浜田 宏
文博第381号	久保 堅一	文化科学	「源氏物語」の研究	(主査) 佐倉 由泰 佐藤 伸宏/佐藤 弘夫/横溝 博
文博第382号	遠藤 みどり	歴史科学	日本古代の女帝と讓位	(主査) 柳原 敏昭 大藤 修/川合 安/安達 宏昭/堀 裕
文博第383号	松崎 瑠美	歴史科学	近世武家社会のジェンダーシステムと女性の役割	(主査) 大藤 修 柳原 敏昭/沼崎 一郎/安達 宏昭/堀 裕
文博第384号	塚本 磨充	歴史科学	北宋三館秘閣における文物の収集・公開活動と「北宋絵画史」の成立	(主査) 泉 武夫 長岡 龍作/尾崎 彰宏/芳賀 京子/大野 晃嗣
文博第385号	小松 健一郎	歴史科学	コレッジョと十六世紀初期ポーロ川流域の芸術—「周縁」におけるマニエラ・モデルナの形成	(主査) 尾崎 彰宏 長岡 龍作/泉 武夫/芳賀 京子/有光 秀行
文博第386号	佐藤 優子	文化科学	ハイデガーと「神」の問題—「哲学への寄与」を出発点として—	(主査) 座小田 豊 野家 啓一/戸島 貴代志/直江 清隆/荻原 理/原 望
文博第387号	金 殷模	言語科学	現代日本語における授受表現の研究—「てもらう」文と「てくれる」文を中心として—	(主査) 齋藤 倫明 小林 隆/大木 一夫/甲田 直美/才田 いずみ
文博第388号	佐藤 高司	言語科学	群馬県方言の社会言語学的研究—30年間の若年層における方言使用の動態—	(主査) 小林 隆 齋藤 倫明/大木 一夫/甲田 直美/千種 眞一
文博第389号	小尾 孝夫	歴史科学	南朝宋齊政権の権力構造とその基盤	(主査) 川合 安 熊本 崇/佐竹 保子/大野 晃嗣
文博第390号	庄司 一平	人間科学	〈人間性の宗教〉という理念—近代米國思想におけるその形成史—	(主査) 鈴木 岩弓 戸島 貴代志/木村 敏明
文博第391号	高橋 睦美	文化科学	『老子指帰』思想研究—漢魏の間における有無の言説とその展開—	(主査) 三浦 秀一 花登 正宏/佐竹 保子/川合 安/齋藤 智寛
文博第392号	引地 博之	人間科学	地域内協力の促進—地域コミットメントの効果とその形成機構—	(主査) 大淵 憲一 行場 次朗/阿部 恒之/木村 邦博/辻本 昌弘/坂井 信之
文博第393号	森川 多聞	文化科学	二〇世紀初頭における「個人」と「集団」の思想—旧制第一高等学校に思想形成した人々の「集団」へのもどり方	(主査) 佐藤 弘夫 佐藤 伸宏/片岡 龍
文博第394号	葛 睿	文化科学	西村茂樹の思想的研究—学問・宗教そして道徳	(主査) 佐藤 弘夫 佐藤 伸宏/片岡 龍
文博第395号	高戸 聡	文化科学	中国神話における天と人の媒介として機能する神の研究	(主査) 花登 正宏 佐竹 保子/三浦 秀一/川合 安/齋藤 智寛
文博第396号	朝賀 俊彦	文化科学	CONSTRUCTIONAL DENOMINALIZATION	(主査) 金子 義明 大河内 昌/島 越郎
文博第397号	田附 敏尚	言語科学	青森県方言における文末形式の研究	(主査) 小林 隆 齋藤 倫明/大木 一夫/甲田 直美/名嶋 義直
文博第398号	川越 めぐみ	言語科学	東北方言オノマトベの形態と意味	(主査) 齋藤 倫明 小林 隆/後藤 齊/大木 一夫/甲田 直美
文博第399号	安本 真弓	言語科学	古代日本語形容詞の研究	(主査) 小林 隆 齋藤 倫明/千種 眞一/大木 一夫/甲田 直美
文博第400号	王 其莉	言語科学	判断のモダリティに関する日中対照研究	(主査) 齋藤 倫明 小林 隆/才田 いずみ/大木 一夫/甲田 直美
文博第401号	佐々木 淳	歴史科学	仙台藩初期藩政史の研究	(主査) 大藤 修 柳原 敏昭/佐藤 弘夫/安達 宏昭/堀 裕
文博第402号	府中 望	歴史科学	フランス旧体制と社会的編成の研究—特権、中央集権化、救貧—	(主査) 小野 善彦 佐藤 勝則/今井 勉/有光 秀行
文博第403号	大谷 哲	歴史科学	初期キリスト教における殉教者の歴史学的研究	(主査) 佐藤 勝則 小野 善彦/有光 秀行/木村 敏明
文博第404号	杵淵 丈夫	歴史科学	ドイツ第二帝政期におけるフリードリヒ・ナウマンの社会思想と中欧構想:ヨーロッパ統合史の視点から	(主査) 佐藤 勝則 小野 善彦/有光 秀行/寺山 恭輔
文博第405号	細谷 要	歴史科学	ヴァイマル共和国初期エルツベルガー財政改革の意義とその限界	(主査) 佐藤 勝則 小野 善彦/森本 浩一/有光 秀行
文博第406号	泉 啓	人間科学	ハーバーマスにおける秩序の未完了の理解—同時代史を背景とした考察—	(主査) 正村 俊之 長谷川 公一/座小田 豊/永井 彰/下夷 美幸
文博第407号	林 雅秀	人間科学	社会関係が森林管理行動に与える影響	(主査) 佐藤 嘉倫 木村 邦博/長谷川 公一/浜田 宏/永吉 希久子
文博第408号	川嶋 伸佳	人間科学	社会的不平等と公正感—ミクロ公正感因果モデルの検討—	(主査) 大淵 憲一 行場 次朗/阿部 恒之/佐藤 嘉倫/坂井 信行/辻本 昌弘
文博第409号	小田島 建己	人間科学	《死者の結婚》を表す絵馬や人形—視覚化された「冥福」と人々の信仰—	(主査) 鈴木 岩弓 佐藤 弘夫/木村 敏明

平成23年度 論文博士授与者名簿

番号	氏名	論文題目	審査委員
文第271号	永井 彰	ハーバーマスの社会理論—視座と方法	(主査) 正村 俊之 長谷川 公一/佐藤 嘉倫
文第272号	高橋 博巳	文人の世紀	(主査) 佐藤 弘夫 佐藤 伸宏/佐倉 由泰
文第273号	中村 三春	新編 言葉の意思 有島武郎と芸術史的転回	(主査) 佐藤 伸宏 佐倉 由泰/佐藤 弘夫
文第274号	龍橋 俊光	近世藩領地域社会の研究	(主査) 大藤 修 柳原 敏昭/佐藤 弘夫
文第275号	福山 泰男	建安文學の形成と展開	(主査) 佐竹 保子 花登 正宏/三浦 秀一
文第276号	矢島 正浩	上方・大阪語における条件表現の史的研究	(主査) 齋藤 倫明 小林 隆/佐藤 伸宏/大木 一夫

メッセージ

在学生からのメッセージ



【白石 冬人】

SHIRAISHI FUYUTO
文化科学専攻
フランス語学フランス文学専攻分野
博士前期課程 平成23年度入学

仙台の中心街から少し離れた、文学研究科棟は山の中の9階建てのビルです。様々な研究室があり、みんなが別々のことを研究しているようでいて、全体としてはつながって、この人間なるものの理解へと近づこうとしている。そんな静かな躍動感とその控えめな佇まいが私は好きです。

私が専門に研究しているのは19世紀フランスの詩人マラルメです。私には芸術の悦びの虜になりたがっていつも浮かれがちなところがあります。それに対して、18世紀が生んだ異端児サドを研究している先輩は、悦びを解剖して、そ

の虚しさを明晰に説明して下さい。ぐうの音も出なくなることを、しばしばです。学生たちはみんなとても優秀です。

意志さえあれば、整った留学制度を利用して、海外へ出て行くことができます。実際、私の研究室からは毎年数名の学生が出かけて行きますし、私もお世話になりました。そして、出発前に先輩・先生方から受けた忠告は酸いも甘いもどれも真実を語っていたのだな、と納得し、また、外国語を学ぶことの途方もなさど喜びを感じました。



【川口 亮】

KAWAGUCHI RYO
歴史科学専攻
文化財科学専攻分野
博士前期課程 平成23年度入学

私自身は考古学を専門としているため、平素は考古学研究室で研究活動を行っています。研究は地道な積み重ねが必要不可欠で、悩んだり迷ったりすることも間々ありますが、ばらばらに見えていた事象が繋がって捉えられるようになってくると、たまらない達成感があります。

文化財科学専攻分野の最大の特徴は、多賀城跡調査研究所や東北歴史博物館で活躍されている先生方から、「現場での経験」に根差したご指導を頂けることにあります。文化財行政や博物館教育に携わる実務者としての立

場から、発掘調査や展示について具体的にご教示を頂くことができ、非常に貴重な経験となります。

東北大学には長年にわたって蒐集された資料・書籍が豊富に収蔵されているほか、研究のための各種機材も整備されており、学生はこれらを活用することができます。また、先生方やOBのつてを辿って、各地の発掘調査や資料を見学させて頂くこともでき、非常に恵まれた環境にあります。



【古里 由香里】

FURUSATO YUKARI
人間科学専攻
行動科学専攻分野
博士前期課程2年 平成23年度入学

文学研究科の魅力は、「設備と人の充実」です。まず、研究室が24時間開放されていて研究に没頭できること、さらに、指導をしてくださる先生方がそれぞれ最先端で活躍する研究者であることが挙げられます。また先生方だけでなく、院生も皆、高い意識を持っており、日常的に議論を行い、互いに刺激を与えあって、切磋琢磨することができます。これは、それぞれが自分の研究に没頭するだけでなく、互いを尊重したうえで、課題や研究について活発に意見を交わして、相互作用による相乗効果が得られるからです。

実際、そのような環境下にあるおかげで、私も積極的に学会発表や研究会を行い、能動的で刺激的な研究活動を行うことができました。また、行事ごとのイベントや休憩中の会話など、プライベートにおいても、充実した生活を送ることができました。

存分に学び、研究に邁進し、日々を楽しむ。ここに在籍することで、このような充実した日々を実現することができると思います。



修了生

からのメッセージ



【 根岸 潤 】

NEGISHI JUN
文化科学専攻
英語学専攻分野
平成23年3月 博士前期課程修了

私が英語学専攻分野で研究していたのは英語の文法に関することでした。英語ではそれぞれの単語がどのような構造で結びついて1つの文を形成するのか。英語教員を目指していた私は、そのことが仕事についてから役立つのではないかと考えていました。しかし、実際に教壇に立った今、大学院で研究した細かな知識は、実はそれほど使いません。むしろ、文学研究科で過ごした日々の中での「一生懸命考える」経験のほうが今の私にとって非常にプラスになっています。「なぜこのような現象が起こるのだろう」「AとBの

構文は、一見無関係に見えて、実は根底は同じもののではないか」このような論理的思考をサポートしてくれるのが先生方や先輩方との議論やアドバイス、そして、各研究室にある膨大な本や論文です。研究は基本的に一人で進めるものですが、周りの方々との相互作用があってこそ成長できます。「一生懸命考える」経験を味わいたい方、文学研究科にはその環境が整っているので、ぜひ飛び込んでほしいと思います。

【 吉田 哲也 】

YOSHIDA TETSUYA
文化科学専攻
哲学専攻分野
博士前期課程
平成22年度入学 平成24年3月修了
博士後期課程 平成24年度入学

私は大学を卒業した後、二年間のフリーター生活を経て大学院に入学しました。いわば「出戻り」なのですが、暖かく研究室に迎えていただけました。文学研究科では、他専攻・他大学・社会人・外国人等々と、幅広く人材を受け入れています。門戸は多くの人に「開かれて」います。そして「開かれている」のは、文学研究科の建物にも当てはまります。基本的に365日24時間研究棟が開いているため、自分の好きなだけ研究室の資料等を利用することができます。

議論する、ということです。研究は内に籠りがちで、しばしば独善的になってしまいますが、他人から質問や批判を受けることでその危険性を回避できます。私が所属する哲学研究室では、普段の授業だけでなく、課外で院生同士、ときには教員とも議論を交わしています。互いに刺激し合い、切磋琢磨できる環境に身をおけることは、何よりの幸運であると私は思います。

大学院で研究する過程で重要だと感じたことは、他人と



【 永澤 志紀 】

NAGASAWA SHINORI
歴史科学専攻
ヨーロッパ史専攻分野
平成23年3月 博士前期課程修了

文学研究科の特色は、モノと人の両面に恵まれた研究環境にあると思います。自然に囲まれた静かなキャンパス、隣接する附属図書館ほか学内の豊富な蔵書施設、24時間開放された研究室。こういった環境のもと、心ゆくまで研究に没頭することができます。また、「もっと研究がしたい」というある種漠然とした思いを抱えて進学した私に、先輩や後輩が刺激を与えてくれ、先生方の熱心な指導により研究に道筋をつけることができました。また、研究室ごとに学会発表や雑誌投稿等の機会が提供されるため、最新の研究

動向を把握し、研究者の方々と交流するという貴重な経験を積むこともできました。談話室やゼミ旅行、文学部野球大会での研究室の仲間とのひとときは、今ではかけがえのない思い出です。

今は公務員の行政職として働く毎日ですが、研究科での2年間の経験は私にとって大きな財産となりました。自分の興味や関心を掘り下げ、突き詰めるのに最適な環境が、ここにはあります。

文化科学専攻 Humane Studies

国文学研究室

国文学は、極めて多様で広範にわたる日本文芸を研究の対象とします。

国文学の研究には種々の立場や方法がありますが、東北大学国文学研究室では、文学が芸術の一種であるとの見地に立ち、日本文学の様式・特質・展開を明らかにするとともに、その意義を世界文芸との関連において探求することをめざして、活発な研究と教育が行われています。

その成果は、本研究室発行の雑誌『日本文芸論叢』その他の学会誌に発表されています。

また本研究室には多くの大学院生や留学生が在籍しており、大学院生を中心に組織される東北大学文芸談話会の月例発表会や機関紙『日本文芸論稿』等において、その旺盛な研究活動の成果が公表されています。

大学院修了後は全国の研究・教育機関に勤務する者が多いのですが、最近是一般企業への就職も増えてきています。



平成23年度 国文学研究室 業・修了記念

- 教授 **佐藤 伸宏**
Sato Nobuhiro

【研究テーマ】
近代文学、比較文学。研究。
近代詩に関する比較文学的研究。
- 教授 **佐倉 由泰**
Sakura Yoshiyasu

【研究テーマ】
中世文学。記物語。
中世文化を支えた表現と知の。
- 准教授 **横溝 博**
Yokomizo Hiroshi

【研究テーマ】
平安文学。王朝物語の。
平安文学の古 訳と受容。
- 助教 **高橋 早苗**
Takahashi Sanae

【研究テーマ】
平安文学。「源 物語」や
「の 覚」な の王朝物語。

文化科学専攻 Humane Studies

日本思想史研究室

日本思想史学は諸外国や諸民族との対比において、「日本的」なものの考え方や価値観の形成過程とその独自性を、歴史的な視点から客観的に明らかにしようとする学問です。この列島上で展開された、古代から現代までのさまざまな思想的営みを広く明らかにすることによって、人間とは何か、「日本人」とは何か、といった問題を探っていくことを目的としています。

東北大学の日本思想史研究室は、博士後期課程までを持つこの分野では国立大学法人唯一の研究室として、大正12年の開設以来、一貫して日本思想史研究界の中心的役割を担い、多数の優れた研究者を国内外に送りだしてきました。教育界などでも多くの修了生が活躍しています。

本研究室では授業のほかに、定例研究会や資料講読会の開催、学術雑誌の刊行など、大学院生を主体とする活発な研究活動が行われています。



研究室主 日韓 同シンポジウム(2007年)

- 教授 **佐藤 弘夫**
Sato Hiroo

【研究テーマ】
倉仏教。国家と宗教。神仏交 史。死生観。
- 准教授 **片岡 龍**
Kataoka Ryu

【研究テーマ】
近世 学思想。朝鮮 学と日本。
- 助教 **富樫 進**
Togashi Susumu

【研究テーマ】
古代仏教思想。古代政治思想。

中国語学中国文学研究室

空間的にはアジア大陸のほぼ東半分。時間的には紀元前十数世紀から現在に至るまで。そこに繰り上げられる言語と文学の営為を、わが研究室は対象とします。範囲が広い上、記録に執心する文化背景があるため、書記言語・音声言語ともさまざまな変遷と交流の軌跡を示し、文学も、百を優に越すジャンルを擁します。院生は、この中からもっとも関心を引く対象を選択し、必要な原典を漢文・中国語・日本語を駆使して解読し、それらを広大な時空の中に位置づけていきます。この作業を助けるスタッフは現在、佐竹保子、馬暁地の二人の教員です。修了生は大学・高校・中学の教師になる人が多いのですが、培った語学力を生かして、中国市場に進出する企業に入社したり、マスコミ(出版社・新聞社)やお役所等でも活躍しています。



教授

佐竹 保子

Satake Yasuko

【研究テーマ】

中国文学。 文文学研究。
魏晋南北朝文学研究。

准教授

馬 暁地

Ma Xiao-di

【研究テーマ】

中国文学。唐代朝 制度と文学の関係。
唐代戯 文学。

中国思想中国哲学研究室

欧州諸国を包んでもなお余りある中国大陸において、漢民族を中心とする人々は幾千年ものあいだ「ひとつの世界」を形成してきた。この中華世界が生み出した変化に富む豊かな文化を考究の対象とする中国文学のなかで、中国思想中国哲学という研究分野は、とくに人々の思索の営みに光をあててその具体的内容を分析し、思想相互の歴史的関係をあとづけ、またそれらの現代的意味を洞察する。

各自の学問的関心がその研究内容を様々に方向づけるわけだが、いずれにしても中国古典文に対する緻密で正確な読解が求められる。それ故、講義や演習は、問題関心の洗練や発表技術の向上をも考慮しつつ、読解力の養成を第一の目標として進められ、さらにそれらを補完し充実させる機会として、大学院生が主導する読書会や雑誌会が随時ひらかれる。



研究室での 風景

教授

三浦 秀一

Miura Shuichi

【研究テーマ】

中国近世思想。
明代の 思想と出版、科 。

准教授

齋藤 智寛

Saito Tomohiro

【研究テーマ】

中国中世思想。
仏教思想。宗教史。

助教

高橋 睦美

Takahashi Mutsumi

【研究テーマ】

古代中世 家思想。

文化科学専攻 Humane Studies

インド学仏教史研究室

インド亜大陸を中心とする南アジアの文化は3000年以上の歴史をもっています。自然環境、言語、人種などに見られる多様性と、時代を超えた持続性とは共存し、そこに誕生したヒンドゥー教は、現在10億を超えるインド人口の約8割に信仰されています。

本専攻分野は、このインド文化圏の言語、哲学、宗教を、その言語文化の背景をも視野に入れて研究し、また、ひろくアジアの諸地域に伝わった仏教を源流から辿り、インド・チベットの仏教に重点をおいて研究しています。時代的には古代、中世が中心になりますが、世界史・人類史を常に念頭に置いて普遍的価値を意識し、現代世界が直面する諸問題にも視野を広げています。

研究方法は、サンスクリット語、パーリ語、チベット語、漢文などの原典に基づいた厳密な文献学的研究を基礎としており、授業も原典に則して行われます。大学院修了者の多くは全国の研究・教育機関に就職し、また、宗教界においても活躍しています。



研究室風景

教授

桜井 宗信

Sakurai Munenobu

【研究テーマ】

インド・チベット密教の儀礼と思想。
インド・チベット仏教流伝史。

教授

吉水 清孝

Yoshimizu Kiyotaka

【研究テーマ】

初期中世インド思想史。
特に聖典解釈学派。

助教

尾園 絢一

Ozono Junichi

【研究テーマ】

ヴェーダ語とインド伝統文法学。

文化科学専攻 Humane Studies

英文学研究室

英文学研究室での研究対象は、古英語期文学から現代文学に及ぶ広範囲のものです。中心となるのは英国ルネサンス期以来の近代イギリス文学ですが、アメリカ文学など英語圏文学も研究対象となっています。現在、英文学研究では、文学をより広い文化の一部として捉え、自由で柔軟な学際的研究方法を積極的に取り入れていくことが一般的となっています。その結果、文学を文化論、ジェンダー論、植民地論などの視点から検討することが英米では盛んに行われています。

当研究室でも他の多様な学問分野の知見を取り入れた文学研究を行っていますが、その基礎となるのが緻密で詳細な一次資料分析にあることは不変の伝統となっています。また、英国人教師による講義・演習を通じて、異文化としての英文化に深く接する機会も十分に与えられています。これまでの修了生の多くは大学に就職していますが、最近は高校の英語教員になる例も増えてきています。



大学院生による自主ゼミの風景

教授

大河内 昌

Okochi Syo

【研究テーマ】

18世紀イギリス思想史・イギリスロマン主義文学。

准教授

岩田 美喜

Iwata Miki

【研究テーマ】

イギリス・アイルランド近代演劇。

准教授

ジェイムズ・ティンク

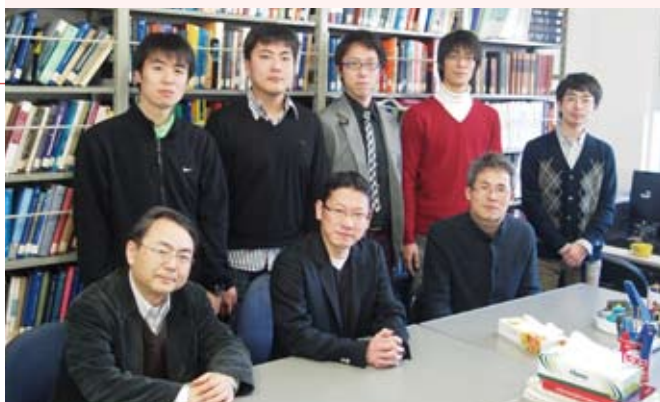
James Tink

【研究テーマ】

16～17世紀イギリス文学。

英語学研究室

本研究室では、言語知識の解明を目標に、生成文法を中心とする言語理論に基づく研究を行っている。主たる対象は英語であるが、日本語等の多様な言語と英語の比較研究も行われている。研究分野は、統語論、意味論（語彙意味論、形式意味論）、語用論等があるが、英語教育への応用や、第1・第2言語習得など認知科学に関わる分野もある。充実した文献に加えて、国内外からの迅速な情報入手態勢が整っており、海外の一流の言語学者による講演や講義の機会も多い。現研究室には、一般の学生に加えて、多様な社会人院生も在籍している。院生は、月例談話会での発表を基に、日本英語学会、日本英文学会等での研究発表、学会誌や本研究室が事務局となっている英語学研究会の英文研究誌 *Explorations in English Linguistics* への投稿により研究成果を発表している。修了者のほとんどは、研究職・教育職に就いている。また、英語教員専修免許状取得が可能である。



集中講義終了後英語学研究室にて

教授

金子 義明

Kaneko Yoshiaki

【研究テーマ】

言語理論。英語統語論と意味論のインターフェイス。

准教授

島 越郎

Shima Etsuro

【研究テーマ】

生成文法理論に基づく英語分析。

助教

中村 太一

Nakamura Taichi

【研究テーマ】

関係節構文。

ドイツ文学研究室

「ドイツ文学」は古風な名称ですが、実際に本研究室で扱う研究テーマは、以下のように多岐にわたります。(1)「ドイツ語で書かれた」文学や思想のテキストについて、その内容や成立の経緯を研究する。(2)社会制度やイデオロギーから、映画・ロック・ファッションなどの大衆文化、さらに食や産業アートまで、現象としてのドイツ語圏文化一般を取り扱う。(3)ドイツ語を、文法・歴史・方言など様々な観点から考察する。(4)地域的限定なしに、文学・映画・コミックなどの表現ジャンルに関連する諸問題を「物語」や「フィクション」という切り口から一般的に論じる。

研究室には学部との垣根がなく、他大学出身者でも自然にとけこめる開放的な環境が用意されています。教員は、学生ひとりひとりの問題関心を尊重し、適切な視点と方法論のもとで研究を深めてゆけるよう支援します。ヨーロッパ文化研究を通じて広い教養と柔軟な思考力を身につけた修了生は、教育・公務を中心とした社会の様々な分野で活躍しています。



研究室風景

教授

森本 浩一

Morimoto Koichi

【研究テーマ】

文学の理論。虚構論。言語思想。

教授

ブリギッテ・
アンネマリー・シュミッツ

Brigitte Annemarie Schmitz

【研究テーマ】

ドイツ文学。

准教授

嶋崎 啓

Shimazaki Satoru

【研究テーマ】

ドイツ語学。ドイツ語史。対照言語学。

文化科学専攻 Humane Studies

フランス語学 フランス文学研究室

当研究室の伝統は、厳密なテキスト読解と実証的検証を研究指導の柱とするものですが、今日、フランス語学とフランス文学に関する研究が孕む問題系は多様化しています。教員スタッフは従来の語学・文学研究の枠を越えた今日の問題にも取り組み、学生には新たな研究領域への挑戦を積極的に推奨しています。フランス語教育の新しい教授法の模索、旧植民地も含めたフランス語圏世界の文学・語学を中心とする多彩な探求、日・英・仏の比較文学・語学研究などはその一例です。

院生達はこれらの研究領域に積極的に踏み込んで実績を上げるために、さまざまな制度・機会を利用して留学し、月例で開催している「研究会」や、種々の学会・研究会で発表しています。さらに卒業生の方々の支援を基に、東北大学フランス語フランス文学会を立ち上げ、機関誌『フランス文学研究』を発刊して、成果を世に問うています。

文化科学専攻 Humane Studies

哲学研究室

本専攻分野においては、古代ギリシアに始まり、主として西欧世界に受け継がれて今日に至っている西洋哲学の営みを引継ぎ、さらに推進することが目指されている。そこで研究は、先人たちの思想的遺産を研究対象とする歴史的考察と、哲学の問題そのものと対峙する体系的考察とを車の両輪として進められる。スタッフの専門分野は古代哲学、近現代哲学、科学哲学、生命環境倫理学などであり、講義や研究演習を通して、原典(英語、独語、仏語、ギリシア語、ラテン語にわたる)の厳密な読解と、それに基づく哲学的探究を実践すると共に、研究能力を身につける訓練を行っている。

学生は、自ら選んだテーマをめぐって、先人と対話すべく原典に向かい、また先行研究を押さえた上で、自らの思案を展開することが求められる。なお、社会人コースにあつては、これまでの社会的活動の現場において形成されてきた問題意識に基づくテーマ(例えば、医療倫理学など)を選ぶことも可能である。

現在のところ修了者の多くは全国の研究・教育機関に就職しているが、今後は社会の様々な場所において、哲学的研究能力を生かす道が拓けてくることが期待される。



- 教授 阿部 宏**
Abe Hiroshi
 【研究テーマ】フランス語学。仏英日対照言語学。ソーシャル文献学。認知意味論。言語学史。記号学。
- 教授 今井 勉**
Imai Tsutomu
 【研究テーマ】フランス文学。ヴァレリー。フランス象徴詩。生成論。クレオール文化論。
- 准教授 ヤン・エリック・メヴェル**
Yann Eric Mével
 【研究テーマ】ベケット。デュラス。小説。演劇。詩学。思想史。芸術史。精神分析。フランス文学における日本の表象。
- 准教授 黒岩 卓**
Kuroiwa Taku
 【研究テーマ】中世・ルネサンス文学および演劇。フランス語史。
- 助教 島貫 葉子**
Shimanuki Youko
 【研究テーマ】サミュエル・ベケット研究。特にリリズムについて。



研究会の風景

- 教授 野家 啓一**
Noe Keiichi
 【研究テーマ】科学哲学および科学思想史。現代英米の哲学。歴史哲学。
- 教授 座小田 豊**
Zakota Yutaka
 【研究テーマ】近代哲学。ドイツ観念論。
- 准教授 直江 清隆**
Naoe Kiyotaka
 【研究テーマ】近現代哲学。科学技術倫理。
- 准教授 荻原 理**
Ogihara Satoshi
 【研究テーマ】古代哲学。現代分析倫理学。
- 准教授 原 朔**
Hara Saku
 【研究テーマ】科学哲学・倫理学(神経科学)、心の哲学。
- 助教 伊藤 周史**
Ito Syuzi
 【研究テーマ】近現代哲学。現象学。

倫理学研究室

倫理学研究室では、ドイツ・フランス・イギリスの倫理思想を中心としてヨーロッパの諸思想を体系的ならびに歴史的に研究しています。

とくに人間における生と死、自然と自由、自己と他者、文化と価値といった基本主題をはじめ、現代の文明と社会がひき起こす環境や生命に関する倫理的な問題にとりくみながら、人間存在の根本的な本質と全体的な構造を追究しています。

研究を進めるうえで外国語(英語・ドイツ語・フランス語など)の読解能力が必要になります。また、私たちの研究室は哲学研究室とともに合同で研究活動や諸行事を行っており、両研究室の教員と学生の交流、原典著作の全集や専門雑誌などの図書資料にも恵まれています。

なお、倫理学研究室では、市民参加型の公開講義・討論会を定期的に開催しています。



演習授業の風景

教授

戸島 貴代志

Toshima Kiyoshi

【研究テーマ】

現代ドイツ・フランスの哲学・倫理学。生の哲学。実存思想。

准教授

村山 達也

Murayama Tatsuya

【研究テーマ】

近・現代フランス思想。

助教

大森 史博

Ohmori Fumihito

【研究テーマ】

倫理学。現象学。フランス思想。

言語学研究室

人間の言語そのものを研究対象とする言語学は、20世紀における人文諸科学の中でもっとも進展の著しかった学問といわれる。言語学研究室では、さまざまな言語の観察・分析を通して、人間の言語が持っている共通の性質や普遍性とは何か、また、各言語に固有の特徴にはどんなものがあるか、さらに歴史以前の言葉の姿はどのように復元されるかといった問題を、音韻論・形態論・統語論・意味論などの領域で探ろうとしている。

最近では、コンピュータを利用した言語分析法の開発や語彙構造の研究への応用を目指すコーパス言語学、fMRIや脳波計を利用した脳と言語の関わりといった新しい領域にも意欲的に取り組んでいる。

本専攻では、特に演習での口頭発表に重点をおき、学会などでの成果公表に直結するよう指導している。修了者は大学などの研究・教育機関のみならず、公務員や民間企業などの多彩な分野で活躍している。



研究会

教授

千種 眞一

Chigusa Shinichi

【研究テーマ】

印欧語学。アルメニア語比較文法。

教授

後藤 斉

Goto Hitoshi

【研究テーマ】

ロマンス語学。言語情報学。コーパス言語学。

准教授

小泉 政利

Koizumi Masatoshi

【研究テーマ】

理論言語学。言語認知脳科学。

助教

金 情浩

Kim Jungho

【研究テーマ】

認知脳科学。第二言語習得。

言語科学専攻 Linguistic Studies

国語学研究室

国語学は、過去および現在の日本語、または過去から現在への日本語の変遷を研究対象とする学問である。最近では日本語学とも呼ばれる。対象となる日本語は共通語ばかりでなく方言も含まれる。研究分野として、音韻・語彙・文法・文章・文字等があり、理論的かつ実証的に研究されている。たとえば現代語研究では、言語学の最新理論を参照したり、方言研究では実地調査等のフィールドワークを行ったりすることも含まれる。

授業は文献や調査に基づいた講義や演習が行われている。特に、大学院生の研究発表の演習では、各自の発表をめぐって活発な議論が見られることも少なくない。また研究室員として海外からの留学生も多く在籍しており、本研究室のひとつの特色にもなっている。

大学院修了後は、前期課程の場合、公務員・教員・会社員等になるものが多く、後期課程の場合、大学・短大・研究所等に就職する者が多い。

言語科学専攻 Linguistic Studies

日本語教育学研究室

日本語教育学専攻分野では、日本語教育学を、日本語を母語としない人々に対して日本語をいかに効率よく教授するかという狭い意味からだけでなく、日本社会・日本文化を背景として成立している日本語を異なる文化社会の一員である外国人学習者が学ぶ、異文化コミュニケーションという広い意味から捉えている。指導に当たる教員には、日本語教育学を専門とする者と社会学を専門とする者がいる。院生の研究テーマには、学問の性質上、言語学・日本語学・心理学・文化人類学・教育学などの隣接領域に関連をもつものも少なくない。多様な研究領域を擁する文学研究科に籍を置いた利点をフルに活用し、関連諸分野の知見や方法も大いに吸収していただきたい。

修了後は海外での日本語教育に従事する者が多い。最近、国内の大学・研究機関や日本語教育機関、一般企業に就職する者も増えてきている。



大学院演習

教授 **齋藤 倫明**
Saito Michiaki
【研究テーマ】
現代語の語彙論(特に現代語の語構成論)。

教授 **小林 隆**
Kobayashi Takashi
【研究テーマ】
日本語方言学。
文献・方言総合的方法による日本語史。

准教授 **大木 一夫**
Oki Kazuo
【研究テーマ】
日本語文法史・文法論。

准教授 **甲田 直美**
Koda Naomi
【研究テーマ】
現代語の文法論。
特に談話・テキスト論。



夏期実習研修旅行

教授 **才田 いずみ**
Saita Izumi
【研究テーマ】
日本語教育におけるコンピュータ利用。
日本語教育方法論。

協力教員：国際交流センター教授
助川 泰彦
Sukegawa Yasuhiko
【研究テーマ】
音声学・日本語教育学。定住外国人の日本語習得。

准教授 **名嶋 義直**
Najima Yoshinao
【研究テーマ】
現代日本語の語用論的研究。
日本語学研究と日本語教育との連携。

准教授 **田中 重人**
Tanaka Sigeto
【研究テーマ】
社会調査法。生活周期と生活時間の国際比較。

日本史研究室

日本史学は、現在の日本列島およびかつて日本が関わった地域に展開した歴史を研究する学問です。本研究室には、古代史、中世史、近世史、近現代史をそれぞれ専門に研究する教員がそろっており、各時代の政治・経済・社会・文化・生活などさまざまな分野について学ぶことができます。

研究の基礎をなす史料の厳密な読解・分析力を培わせたいうえで、各自の内発的な問題意識を重んじ自由に研究させるのが、本研究室のモットーです。また、各時代ごとに学生が自主的に研究会を組織し、互いに切磋琢磨しているのも特徴です。勉学意欲があれば、他大学出身者や社会人、留学生も積極的に受け入れています。

開放的で自由闊達な雰囲気の中からも多くの有為な人材が育っており、学界のみならず、史料・文化財保存の世界でも活躍し、我が国の学術・文化の発展に貢献しています。



史料整理実習

教授
大藤 修
Ohto Osamu

〔研究テーマ〕

日本近世史。近世村落生活史。近世武家社会史。近世古文書学。

教授
柳原 敏昭
Yanagihara Toshiaki

〔研究テーマ〕

日本中世史。国家・社会と宗教。国家周縁部の比較研究。史学史。

准教授
安達 宏昭
Adachi Hiroaki

〔研究テーマ〕

日本近現代史。日本・東南アジア関係史。昭和政治史。

准教授
堀 裕
Hori Yutaka

〔研究テーマ〕

日本古代史。古代天皇論。古代の仏教・寺院・僧侶集団の研究。

考古学研究室

考古学は、過去の人間集団が残した遺跡、遺構、遺物を主な研究対象として、当時の社会、文化の探求を行う、歴史学の一分野です。東北大学考古学研究室では、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世の各時代にわたり、また海外の考古学研究を進めています。遺跡における発掘調査を実施し、出土遺物の整理、分析、報告の実際を学び、研究方法を身につけます。アメリカ、フランス、ロシア、中国、韓国との国際交流も盛んです。

文学研究科考古学陳列館、および考古学資料収蔵施設には、国指定重要文化財477点を含む、多数の貴重な学術資料を有しており、研究・教育に活用しています。

調査と分析には最新技術と先端的な方法を採用し、各種の機器を備えています。高精度な測量と迅速な記録のためのトータルステーションとコンピュータによる発掘記録分析システムをはじめ、石器使用痕の観察などに高性能の顕微鏡各種、写真機材、遺物処理設備、蛍光X線分析装置ほかを活用しています。研究の成果は調査研究報告書として公開し、国内外で貴重な資料として利用されています。「上ノ野A遺跡」「早水台遺跡」「荒屋遺跡」「梨木畑貝塚」他の報告書を近年刊行しています。

修了者の進路は、考古学関係の専門職の道を選択する人が多く、大学、文化財研究所、博物館、埋蔵文化財センター、自治体の文化財課など、多岐にわたっています。



山形県高倉山遺跡の発掘風景

教授
阿子島 香
Akoshima Kaoru

〔研究テーマ〕

比較文化的な先史考古学。

准教授
鹿又 喜隆
Kanomata Yoshitaka

〔研究テーマ〕

日本考古学。

助教
佐野 勝宏
Sano Katsuhiro

〔研究テーマ〕

日本・ヨーロッパの先史考古学。

歴史科学専攻 Historical Studies

東洋史学研究室

東洋史学は広くアジア全域を対象とする。本研究室でも主に中国地域を中心に、周辺諸地域へも関心を払い研究活動を行っている。教員の定員は三名(教授二名、准教授一名)であるが、伝統的に指導教員のみならず全ての教員が学生の相談や質問に随時応じる体制をとっている。

本研究室が最も重視するのは、中国古典文すなわち漢文によって記載された史料の緻密な読解である。それを可能とするのは正確な読解力であり、また当該史料の様々な関連文献を精査しうる調査力である。我々は読解力そして調査力の涵養こそが歴史事象を的確に解析するうえで最も重要な要素であると信ずる。

なお、教員による講義のほか、夏期合宿(修士論文構想発表会)をはじめとして、学生による定期的な研究発表会や史料の会読が開催されている。また近年の科学学での成果に代表されるように、文史哲の垣根を越え中国や日本で研究活動を行っている。こうして、研究角度や断代による各々の専門に閉じこもることなく相互に活発な活動を推進しているのである。

歴史科学専攻 Historical Studies

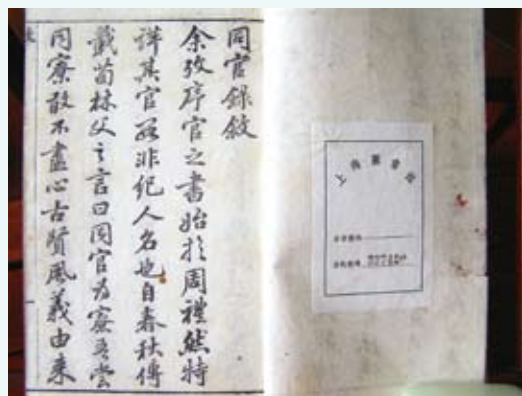
ヨーロッパ史研究室

本研究室は、古代地中海世界史、西洋中近世史、欧米近現代史担当の専任教員2名と助教1名をスタッフとし(助教を含めて現員3名)、前期課程4名、後期課程2名の大学院の年次学生定員によって構成され、活発な研究活動を行っています。

研究活動の中心は、これら構成員全員参加の大学院研究例会にあります。この例会は、随時、修士論文構想発表会や博士学位論文予備審査会の場となり、各人の研究の進展を促すとともに相互の切磋琢磨の機会となっています。また当研究室は全国学会、「西洋史研究会」の事務局を引き受け、学会誌『西洋史研究』新輯号を年に一度発行しています。この新輯号の前身は、1932年刊行の『西洋史研究』であり、日本最初の西洋史学の専門学術誌でした。

「史学は努力の学なり」との名言を残した中村善太郎教授(フランス近代史)を初代(1922年)とし、ルネサンス研究で文化史学の体系を築いた大類伸教授によって本研究室の実証を重んじる学風は定まりました。戦後も日本の西洋史学界をリードする数多くの研究成果を生んできました。

研究・教育職を中心にこれまで修了生は全国的に活躍しております。近年では大学院修了生に対する社会的要請の強化にともない、研究・教育職以外の様々な分野への進出が期待されています。



史料収集のために国外へ赴くことも

教授 **熊本 崇**
Kumamoto Takashi
【研究テーマ】 近世中国政治制度史。

教授 **川合 安**
Kawai Yasushi
【研究テーマ】 中国魏晋南北朝、隋唐史。

准教授 **大野 晃嗣**
Oono Koji
【研究テーマ】 明清官僚制度史。



研究室ゆかりの、わが国最初の西洋史学専門研究雑誌『西洋史研究』(左)創刊号(昭和7年)、(右)最新号(平成23年)

教授 **小野 善彦**
Ono Yoshihiko
【研究テーマ】 西洋中世史・近世史。

准教授 **有光 秀行**
Arimitsu Hideyuki
【研究テーマ】 西洋中世史(ブリテン諸島を中心に)。

助教 **大谷 啓**
Otani Satoshi
【研究テーマ】 初期キリスト教史。帝政ローマ史。

東洋・日本美術史研究室

東洋・日本美術史が対象とする領域は広範ですが、当研究室の構成員は、主に絵画と彫刻の研究を行っています。特に、教官は仏教美術を専門としており、講義・演習などはこの領域の内容が充実しています。しかしながら、我々は偏狭な専門知識にとらわれず、広範な関心から美術史に興味を持つ方を歓迎したいと思います。文献を主要な対象として行われる歴史研究に対し、美術史学は造形芸術を中心的な対象として研究を行う点に特色があります。それゆえ、研究者は作品の観察のために、しばしば国内・海外を問わず調査旅行に赴きます。

研究室としても毎年関西方面への研修旅行を行い、作品の調査・研究の指導に努めています。大学院においてはほぼ全員が学芸員資格を取得し、修了後は大学・研究機関や美術館・博物館において教育・研究に携わり、研究者として第一線で活躍する者も少なくありません。

(研究室HP : <http://www.sal.tohoku.ac.jp/art/>)



京都常照皇寺での研修旅行風景

教授

長岡 龍作

Nagaoka Ryusaku

【研究テーマ】

中国・日本仏教彫刻史。

教授

泉 武夫

Izumi Takeo

【研究テーマ】

仏教絵画史。

助手

海野 啓之

Unno Hiroyuki

【研究テーマ】

日本仏教彫刻史。

美学・西洋美術史研究室

近年、芸術に対する関心はますます高まっています。芸術とは何かを問う必要性に迫られているからです。本研究室では、芸術作品をどう見るかということを中心に研究・教育がなされています。作品自体を調査し、歴史的な文脈の中から批判的視点で現代的な意味を探り当てようとしているわけです。

その対象となる芸術作品は、古代ギリシア・ローマ美術、ルネサンス以降の西洋美術が中心となっています。

古代彫刻や、ミケランジェロ、ラファエロ、デューラー、レンブラントなどの代表的な芸術家の作品にさまざまな角度からアプローチし、作家と作品研究を行っています。あわせて東西の美術を比較し、その交流の問題にも取り組んでいます。西洋美術とは何か？ それを研究する意義とは何かを問うためにはこうした比較の視点が重要なのです。研究指導は3人の教師を中心にして活発になされています。

本研究室では外国へ留学する者も多く、すぐれた研究者を輩出しています。本研究室出身の研究者を中心に『西洋美術への招待』（東北大学出版会）を公刊したことにも見られます。

学芸員資格を取得し、美術館など就職先は多岐にわたっています。



福島県立美術館での「実習」風景

教授

尾崎 彰宏

Ozaki Akihiro

【研究テーマ】

バロック美術。
ネーデルラント美術。

准教授

芳賀 京子

Haga Kyoko

【研究テーマ】

ギリシア・ローマ美術史。

准教授

エリンコ・フォンガロ

Enrico Fongaro

【研究テーマ】

美学・芸術理論。

歴史科学専攻 Historical Studies

比較文化史学研究室

比較文化史学の範囲や概念は、本来広く多様な要素から成り立っていますが、比較文化史学研究室では、教員の専門構成（教授・准教授、2名）から、今日最も注目される地域である東北アジア地域を研究エリアとしています。具体的には、中国を主とした東アジア社会・文化史の比較研究、近世印刷出版文化の研究、及びロシア・ソ連のアジア・極東政策史の研究に重点を置いています。院生は文学研究科に所属しますが、教員は、東北アジア研究センターに所属し、文学研究科には協力講座として参画して、教育・研究に携わっています。教育内容の充実のために、外部から非常勤講師を招聘することもあります。

東アジア及びロシア地域を研究の中心に置くため、研究の際には専攻テーマによって中国語・漢文、もしくはロシア語、比較文化という観点から英語の語学力が望まれます。

中国やロシア、アジア・ヨーロッパ・アメリカの研究者と学術交流を持ちつつ、フィールド調査を含めた共同研究を実施しています。

現在、本研究室所属の院生や他研究室の院生の指導に当たっています。比較文化史学研究室では、新しい学問領域へチャレンジする人材を募集しています。

歴史科学専攻 Historical Studies

文化財科学専攻分野

文化財とは、人間活動の所産であって文化価値を有するもので、概ね歴史遺産をいう。しかしそれのみに止まらず、人間活動をはぐくんだ天然記念物など、地球環境をも含む広い概念である。当専攻分野では、先ず文化財とはなにかという基本を学び、各文化財は人々のいかなる行為の所産であるかを追究する。また環境と人々の行為の関わりをも考える。その後、文化財が置かれている現状について検討していく。次いで、保護・保存を前提としながら、活用策を研究する。文化財と社会の接点をいかに形作っていくかが、課題となろう。文化財科学では、特別史跡多賀城跡の研究、文化財の展示公開に関する博物館学的研究、文化財行政に関する研究、文化財の保存処理および修復の研究などの教育研究を行っている。

本研究分野は、文学研究科と宮城県教育委員会との『東北大学大学院博士課程の教育研究への協力に関する協定書』に基づき実施する。いわゆる連携大学院である。宮城県教育委員会の東北歴史博物館、および多賀城跡調査研究所の専門職が客員教員（客員教授2名、客員准教授1名の定員）として、授業を実施している。

また、副指導教員として、文学研究科の関連分野である考古学専攻分野の教員が、補完的に指導にあたる。



月兎怪と孫悟空との戦いの場面（『全像金宇西遊記絵本』）

教授:東北アジア研究センター教授

磯部 彰
Isobe Akira

【研究テーマ】
東アジア出版文化史。
近世中国文化史と中国小説・戯曲。

准教授:東北アジア研究センター准教授

寺山 恭輔
Terayama Kyosuke

【研究テーマ】
ソビエト連邦史。
近代ロシアと極東政策。



文化財科学実習風景

客員教授(東北歴史博物館)

笠原 信男
Kasahara Nobuo

【研究テーマ】
宮城県のカ文化財。

客員教授(多賀城跡調査研究所)

佐藤 則之
Sato Noriyuki

【研究テーマ】
多賀城跡の研究。

客員准教授(多賀城跡調査研究所)

吉野 武
Yoshino Takeshi

【研究テーマ】
多賀城跡の研究。

社会学研究室

社会学は、社会の構造や変動に注目しながら、人間と社会との相互作用を包括的・多面的に研究する学問である。人文・社会系の学問の中でも同時代的性格が強い。研究分野は、自我をめぐるミクロ的な問題から地球環境問題に至るまで幅広いが、本専攻分野は特に理論研究(M・ウェーバー、T・パーソンズ、J・ハーバーマスなどの現代的な位置づけ、情報社会論、コミュニケーション論、都市空間論、アジア社会論、社会運動論、政治社会学、医療社会学など)と、実証研究(都市・農村のコミュニティの研究や環境問題、地域医療・福祉など)を重視している。指導にあたっては、外国語文献の精読をはじめとする理論的トレーニングおよびフィールド調査にもとづく社会現象の質的分析に力を入れている。大学院修了者のほとんどはこれまで研究職に従事してきたが、今後は、高度な専門教育と訓練の成果を生かすべく、マスメディア・出版・自治体・NPOなどの現場で幅広く活躍することも期待できる。



教員の編著書

- 教授 **長谷川 公一**
Hasegawa Koichi

〔研究テーマ〕 社会変動学および社会紛争論。環境社会学。
- 教授 **正村 俊之**
Masamura Toshiyuki

〔研究テーマ〕 理論社会学・社会情報学・コミュニケーション論。日本社会論。現代社会論。
- 教授 **永井 彰**
Nagai Akira

〔研究テーマ〕 現代社会学理論(ハーバーマス、ルーマンを中心として)。農村地域社会の変動過程。地域福祉の社会学。
- 准教授 **下夷 美幸**
Shimoebisu Miyuki

〔研究テーマ〕 家族社会学及び家族福祉政策。
- 助教 **木村 雅史**
Kimura Tadafumi

〔研究テーマ〕 理論社会学、ミクロ社会学。

行動科学研究室

行動科学とは、人間の意識や行動を手がかりに人間と社会を統一的に理解し問題解決に貢献しようとする学際的学問です。研究にあたっては数理的・計量的方法を用いますので、文系・理科両方の特徴を持っていると言えるでしょう。研究は、計量的研究と数理的研究に大別されます。前者は社会調査に基づいた統計分析であり、社会階層や社会意識などについて探究しています。必修科目を履修すると「社会調査士資格」、「専門社会調査士資格」を取得できます。後者は、数学モデルを構築して様々な社会現象を解明しようとする研究であり、社会的不平等の生成のメカニズムの他、信頼の形成や社会計画・社会運動などの分析を行っています。行動科学研究室では、社会学やその関連分野(社会心理学・政治学・経済学等)を学び数理計量的方法に興味を持つ人だけでなく、理系系の学問分野を背景にして学際的研究を志向する人とともに、研究を進めていきたいと考えています。



研究会風景

- 教授 **佐藤 嘉倫**
Sato Yoshimichi

〔研究テーマ〕 社会変動論。信頼の研究。社会階層論。ゲーム理論の応用。
- 教授 **木村 邦博**
Kimura Kunihiro

〔研究テーマ〕 階層意識の計量分析。社会的意決定の数理分析。社会調査法。
- 准教授 **浜田 宏**
Hamada Hiroshi

〔研究テーマ〕 数理社会学。不平等の研究。シミュレーションと実験。
- 准教授 **永吉 希久子**
Nagayoshi Kikuko

〔研究テーマ〕 多文化状況での社会統合に関する計量研究。
- 助教 **川嶋 伸佳**
Kawashima Nobuyoshi

〔研究テーマ〕 社会心理学。公正感に関する研究。

人間科学専攻 Human Sciences

心理学研究室

当研究室では、心の働きや仕組みを意識現象と行動を通して実証科学の立場から解きあかそうとしている。研究分野は社会心理学、文化心理学、認知心理学、感情心理学、動物心理学などの基礎的領域から、矯正・犯罪心理学、防災心理学、化粧心理学、食行動心理学などの応用領域にわたっている。どの領域の研究をするにも関連科目の情報科学、哲学、社会学、統計学などの基礎知識は不可欠である。さらに大学院生には、研究室での共同研究に積極的に参加し、研究領域や方法論についての関心の中を広げるよう特に強く求めている。研究室では戦前より“*Tohoku Psychologica Folia*”という欧文誌の刊行に努め、研究成果を広く海外に公表してきている。研究室の歴史は90年に及んでいる。その間、約1,100名以上の学部卒業生を輩出した。また大学院修了者の多くは、大学やその他の研究機関で活躍しているほか、一般企業においても優れた研究者や実践家として活躍している。



心理学演習風景

教授 **大淵 憲一**
Ohbuchi Ken-ichi
【研究テーマ】 社会心理学。人間の攻撃性と紛争解決の心理学。

教授 **行場 次朗**
Gyoba Jiro
【研究テーマ】 知覚心理学。視覚認知心理学（パターン認知、錯視現象、感性情報処理）。

教授 **阿部 恒之**
Abe Tsuneyuki
【研究テーマ】 生理心理学（ストレス）。感情心理学（化粧・防災）。知覚心理学（顔・香り）。

准教授 **坂井 信之**
Sakai Nobuyuki
【研究テーマ】 応用心理学（味覚と嗅覚特性の応用）。健康心理学（食行動や匂い環境）。

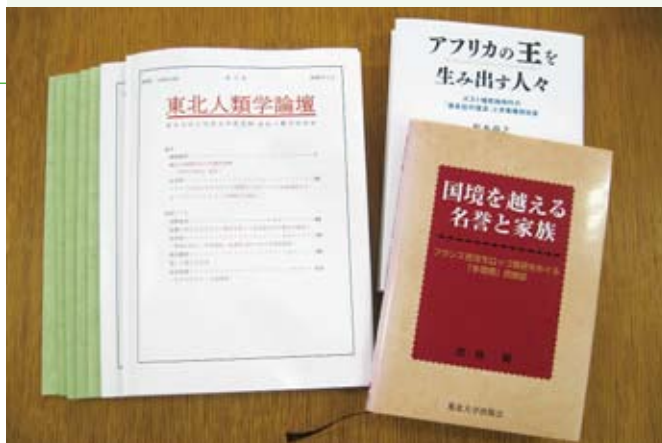
准教授 **辻本 昌弘**
Tsujiyama Masahiro
【研究テーマ】 社会心理学。地域社会における資源交換。移民の社会と文化。

人間科学専攻 Human Sciences

文化人類学研究室

今日、文化人類学の研究対象は急速に変化しています。これに応じて、医療、環境、開発、観光、紛争、難民、人権など多様な研究領域が開かれています。しかし、フィールドワークという調査法を用いて、広い意味での文化を総体的に理解するという基本的な性格は変わっていません。

本研究室では、古典から先端研究までの研究史と、フィールドワークを用いて研究できる現代的なテーマは何かを見出して、具体的な調査計画を立てるということを、プログラムの中心に置いています。二名の専任教員はいずれも東アジア研究者ですが、学生たちのフィールドは、モロッコ、インド、ロシア、ナイジェリア、極北、中国、韓国、ルーマニアなど多くの地域に及んでおり、各自の関心を自由に伸ばすことを重視して指導しています。発足して18年あまりの文学研究科では一番若い研究室ですが、徐々に歴史を積みながら、未来に向かって開かれた研究室になっています。



研究室が出版する学術雑誌「東北人類学論壇」(右)と研究室修士の著作(左)。

教授 **沼崎 一郎**
Numazaki Ichiro
【研究テーマ】 東アジアの経済と社会（台湾・香港を中心として）。現代世界の文化と人権（日本を中心として）。

准教授 **川口 幸大**
Kawaguchi Yukihiko
【研究テーマ】 東アジアの親族と地域社会伝統の持続と変化（中国を中心として）。

宗教学研究室

不可視の世界との関わりの中に成立している宗教現象は、時代を超え、地域を超えて人間生活と共に在り続けてきました。本研究室ではそのような宗教現象に対し、哲学や現象学、歴史学などと隣接する「文献研究」と、文化人類学や民俗学、社会学などと隣接する「実証研究」との統合を目指しつつ研究活動を続けています。研究指導上の特色として、全ての学生に「宗教学実習」の履修が求められる点がありますが、これは生きた信仰生活の現場に触れることなく宗教現象に対する理解を深めることは困難であるとの認識があるからです。

本年度の大学院生は博士前期7名、博士後期10名で、それぞれの研究テーマは多岐にわたっておりますが、宗教を歴史の一部、社会の一部として捉えるのではなく、宗教それ自体を研究の中心に据える視点は共通しています。

なお、図書館に寄贈されている二代目教授の石津照璽博士の蔵書は、われわれの研究活動の大きな助けとなっています。



炎天下の恐山で死者供養をする人々

教授

鈴木 岩弓

Suzuki Iwayumi

【研究テーマ】

宗教民俗学。死生観。民間信仰の形成過程。現代日本の祖先祭祀。

准教授

木村 敏明

Kimura Toshiaki

【研究テーマ】

宗教人類学。インドネシアの社会と宗教。キリスト教の受容。宗教現象学理論。

准教授

山田 仁史

Yamada Hitoshi

【研究テーマ】

宗教民族学。神話学。台湾を中心としたオーストロネシア研究。

助教

庄司 一平

Shoji Ippei

【研究テーマ】

宗教哲学。宗教思想史。米国の宗教と社会。

科学技術社会論

地球環境やエネルギーの問題では、科学技術はその根本原因の一つであると同時に、解決策の一つでもあるという両義的な側面を持ちます。そうした諸問題に係る国際交渉や国内政策における政策課題の評価や、政策決定過程を含めた諸要因を科学技術論の観点から分析し、政策提言を行うことができるよう、専門的な研究教育を行います。

具体的な問題としては、地球温暖化および越境酸性雨、生物多様性、オゾン層破壊、漁業資源管理などの地球規模の問題や国内におけるさまざまなリスクの問題を中心に幅広く取り扱います。具体的な分析対象と研究手法の例としては、1. 地球環境問題の解決のために必要不可欠な科学技術分野の国際協力のメカニズムを理論・実証の両面から解明し、東北アジア地域における当該協力を成功させるための教訓を導きます、2. 合理的な環境政策を実施するための知的基盤として重要な科学的知見を国際交渉や国内の政策決定過程にインプットするための科学的方法論や制度構築の要件を、政策科学と科学技術社会学を融合したアプローチにより解明します。

現時点での修了者は2名です。修了後は、大学や研究機関において活躍されることが期待されます。



教授(東北アジア研究センター)

明日香 壽川

Asuka Jusen

【研究テーマ】

環境エネルギー問題の政治経済学。

准教授(東北アジア研究センター)

石井 敦

Ishii Atsushi

【研究テーマ】

環境政策論。科学技術社会学。



東北大学
文学部
文学研究科

川内キャンパスへのアクセス

仙台市営バス 仙台駅前バスプール発		
動物公園循環 (青葉通経由)	宮教大 行	宮教大・青葉台行
のりば⑨乗車		
↓		
「東北大川内キャンパス・萩ホール前」下車		

東北大学大学院 文学研究科

〒980-8576 仙台市青葉区川内27番1号
TEL.022-795-6005(教務) 022-795-6003(庶務) FAX.022-795-6086

東北大学大学院文学研究科についての
詳しい情報は、ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>



このインプレットは環境に配慮した
「水なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい植物油インク
「VEGETABLE OIL INK」で
印刷しております。